

LINN LP-12 の再構成(32)

—総合試聴—

1. 始めに

前報(31)では、LP-12のカルーセルキットの導入や TruPhase 導入の効果を ST 氏に確認していただきました。今回、その時にお問い合わせした 300B シングルアンプの修理が終わったとのことと、さらに不用品の引き取りその他のことでご来臨いただき、前報(31)以降の VRA-7 や USB ダンパーの効果を確認していただきました。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

VRA-7 や USB ダンパーの適用については一連の VRA-7 の導入と VRA-7 の活用や USB ダンパーの導入シリーズで報告しています。

さらに、その後の再生経路の変更点としては、アンプが Lngevin 6V6pp から Rogers Cadet III に替わっています。なお、ZANDEN Model 120 からは、Brooklyn DAC+ にライン入力し、Brooklyn DAC+ から TruPhase にはバランス接続とアンバランス接続しています。

最初はこの状態で聴いていただき、ついで修理の終わった 300B シングルアンプに繋ぎ替え、動作確認を兼ねて試聴していきました。

試聴した音源は、手持ちの盤と ST 氏にご持参いただいたもので、次のとおりです。

アナログ盤

Verve DLP99256219

Wall lover 他

ダイアナ・クラール

【Columbia N 第4時定数 High/Mid/Low】

Liverty LKB018

Julie London

【Decca R 第4時定数 Low】

Toshiba TP-60302

前田憲男

【EMI R 第4時定数 Low】

Odeon EOP 80706

Franck Pourcel

【EMI R 第4時定数 Low】

Victor 45X-104 (PHILIPS) 45rpm 盤

ポール・モーリア

【RIAA N 第4時定数 High】

CD

HD Impression HDI70003

Headphone Concert 21

藤田恵美

ナクソス・ジャパン KCD-2079

モーツァルト 幻想曲ハ短調他

稲岡千架

JARO Medien GmbH JARO 4310-2

ブルガリア伝統曲

アンジェリーテ

YAMAHA MUSIC TECT1232

岩崎宏美

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

上記の【 】内は ZANDEN Model 120 の設定条件です。クラシック以外は、さだかでないレーベルもあって、判断に自信がありませんが、その場の印象を頼りに設定して聴いていきました。

まず、最初に現状のアンプの Rogers Cadet III で、藤田恵美の CD とダイアナ・クラールのアナログ盤を聴いていただきましたが、確かに VRA-7 の効果などで、随分と印象が変わっているということでした。

次にアンプを修理の終わった 300B シングルに替え、TruPhase から 300B シングルの接続はアナログアキュライザー経由のアンバランス接続としました。なお、アナログアキュライザーには、VRA-7 を貼っています。



先ほどと同じ藤田恵美の CD とダイアナ・クラールのアナログ盤は、アンプの素性の

良さが効いて、3極管シングルアンプらしく抜けがよく、細かいニュアンスが伝わるという感じです。

さらに、ご持参いただいた **Julie London** と前田憲男のアナログ盤を聴いていただきましたが、イコライザーカーブを **RIAA** にしたり、位相を正相にしたりするよりは、**ZANDN** のリストにある上記の条件が良いとのことでした。**Julie London** はボーカルが前に出てバックとの位置関係が分かりやすく、前田憲男のピアノは響きが良いとのことでした。

ここで、**TruPhase** への入力をバランス入力とし、**300B** シングルへの接続はバランスアナログアキュライザー経由のバランス出力としますと、アンバランスの時より安定した音になりました。

TruPhase での位相反転機能を試したところ音量が異常にアップし、**TruPhase** のヴォリュームが効かないくらいになりましたので、**TruPhase** での位相反転テストは後日じっくり実施することにしました。

さらに **300B** シングルのヴォリュームに **VRA-7** を貼ろうとしましたが、左右のヴォリュームが近接しているため、後日可能な方法を追求することにしました。

その代わりに **TruPhase** から **300B** シングルへの接続の間にあるバランスアナログアキュライザーに **VRA7** を貼ったところ、その効果は大きいというご感想でした。



この条件下で **Franck Pourcel** とポール・モーリアを聴かせていただきましたが、電子楽器が入ったり、ムードミュージック風の録音の仕方が表面に出てきます。

ここでブルガリアンポリフォニーの **CD** を聴きたいというご要望があり、複雑な協和しない声のパートがよく分離して聴こえるということでした。

さらにベヒシュタインの音を聴きたいという要望に対して、ミーントーンで調律されたベヒシュタインのモーツァルトを聴いていただきましたが、ピアノの音が美しいというご感想です。

さらにもう一度、藤田恵美とダイアナ・クラールを聴いていただきましたが、バランス接続と **VRA-7** の効果が出ているということでした。藤田恵美のボーカルの変化は

分かりにくいですが、バックのヴァイオリンは艶が乗ってきたというご感想でした。最後にご持参の CD で生々しい岩崎宏美のボーカルを聴いて締めくくりとしました。300B シングルアンプの素性の良さ、バランス接続とバランスアナログアキュライザーへの VRA-7 の貼り付けなどの効果が確認できたと思います。また、イコライザーカーブや位相反転、第 4 時定数の選択などの効果も確認できました。300B シングルアンプのヴォリュームへの VRA-7 の貼り付けなどは、今後の課題をしておきます。また、ST 氏からはアクセサリ類の紹介を受けましたので、後日テストします。

4. まとめ

新規フォノイコライザーの導入から TruPhase の導入や LP-12 のカラーセルキットへの更新の効果に加えて、VRA-7 や USB ダンパーなどの効果を、修理の終わった 300B シングルアンプの動作確認を兼ねて、総合的に ST 氏に確認していただきました。今後の方向性が明確になり、さらなる課題も設定できました。

以上